

M 谷氏邸・D 氏邸訪問記(2016.11.19)

1. 始めに

[M 谷氏邸訪問](#)は昨年のゴールデンウィーク以来、[D 氏邸訪問](#)は本年のゴールデンウィーク以来です。M 谷氏邸では、[ASC での動作テスト](#)を経て DELA を導入され、ネットワークオーディオを始められたので、その試聴をさせていただくことをお願いし、D 氏邸では、クラシックのアナログマニアの M 氏、O 氏とともにジャズのアナログマニアの D 氏のシステムを聴かせていただくことが目的です。

2. M 谷氏邸システムの試聴の経過

M 谷氏邸システムで変わったことは JBL4343 とナショナルの拳骨の改造品とパラに接続していることです。拳骨はフルレンジで駆動し、JBL4343 はウエスギアンプと Crown のアンプでマルチチャンネル駆動としています。



M 谷氏邸システムで新しく加わったのは、DELA の HA-N1A の最新バージョン(写真左)で HA-N1A から AIT Lab の DAC (写真右最下段) に USB リベラメンテで信号を送り込んでいます。他にも M2TECH の DD コンバーターやキット屋の DA コンバーターがありますが、当日は使用せず、DELA の HA-N1A の試聴に集中しました。



いろいろな音源を聴かせていただきましたが、M 谷氏の言によれば、PC の foobar2000 による再生より、HA-N1A からの送り出しの方が透明度が増したという

ことでした。

M氏がAETのケーブルにアモルメットのリングをはめたものをテストしたいということで、HA-N1Aの付属ケーブルをこれに替えてみたところ、切れ味がよくなり、ピントがってきました。



この後、ヤマハのGT-2000に装着したDL-103とシェルターのフォノイコでアナログを聴かせていただきましたが、非常に生音に近い自然な感じがしていました。

M谷氏のシステムで面白いところは、JBL4343と拳骨のレベルを相対的に変えていくと音の出方が変化することで、音楽ジャンルや曲によって調整することができそうです。

HA-N1Aはまだ仮置き状態ということでしたが、今後の調整で、さらにどう進化していくかが楽しみです。

3. D氏邸システムの試聴の経過

M谷氏邸を辞して向かった、D氏邸のシステムは基本的には以前と変わってはいませんが、稼働していないビンテージものが増えているようです。メインスピーカーのJensen Imperialとガラード301の写真のみ掲載しておきます。



まずは、CDからということで、Studer725とEMT981で交互にいろいろかけていただきましたが、Studer725とEMT981それぞれの個性がこれまで聴いてきたとおりの音として出てきました。ここで先ほどのM谷邸と同様にEMT981の電源ケーブルをM氏がアモルメットのリングをはめたAETのケーブルに替えてみたところ、Jensen Imperialの大人の風格の音がクリアーになり、解像度も上がってきました。

O氏とM氏はオーケストラのCDではこちらの方が良いというご感想です。そろそろアナログを聴こうということで、ノッチングガムのプレイヤーに装着したDL-103、ガラード301に装着したSPU-GT、ノッチングガムのプレイヤーに装着したELLACのカートリッジ、ふたたびガラード301に戻って持参したSPU Synergyと次々と聴いていきましたが、それぞれの個性が楽しめ、SPU SynergyはWesternのトランスを経由させているので、自宅で聴く音とは違った、明るくとおりの良い明晰な音がしていました。

この後、ガラード301にM氏が持参されたM氏の持参されたOrtofonのモノラルカートリッジCG25IIを装着してモノ盤を次々とかけていきましたが、盤とスピーカーの時代背景がマッチして、昨今のハイエンドの世界とは違った趣を感じさせてくれました。

4. まとめ

お二方のシステムを聴かせていただき、改めて分かったことは、それぞれの音楽の好みにあったシステムの調整ができているということです。M谷氏はハイレゾも含めて比較的新しい音源を聴いておられ、シャープで切れ味のよい音で楽しんでおられます。片やD氏は同じジャズでも古いアナログ盤でモノラルも多く聴かれることから、Jensen Imperialで古き良き時代のアメリカンサウンドを再現されています。それが、O氏が持参されたアナログマスター時代のクラシックにも通ずるものでもあったように感じました。次の機会にはM谷氏には拙宅のfidataを聴いていただくことにしています。

以上